

通学路の改善要望、実現したのは16%から35%

関係団体で連携組織づくり、要望実現まで努力を

私は14日、児童生徒の通学路の安全確保、災害対策で一般質問を行いました。以下は通学路問題に関する質問の要約です。

【橋爪】通学路の問題は子どもたちの命を守るうえで重要な課題の一つだ。市内における登下校の際の事故実態はどうなっているか。それらを踏まえて、市教委としてはどのような安全確保対策をとってきたか。

【中野教育長】昨年度1年間で学校から報告のあった登下校中の交通事故は、車道への飛び出しや車両との接触など、小学校、中学校でそれぞれ6件ずつ、いずれも軽微な事故が12件であり、今年度に入り、今年度は5月末時点で1件だ。また、登下校中の不審者事案は、昨年度までは減少傾向にあったものの、今年度は4月以降すでに9件報告され、警察との連携を密接にするなど危機

改善要望の分類	要望件数	要望実現した件数	要望実現率
歩道の設置・改修	112	23	20.5
横断歩道の設置・改修	111	18	16.2
街路灯の設置・改修	97	18	18.5
ガードレール等の設置	71	25	35.2
交通標識・注意看板の設置	66	14	21.2
信号機の設置	65	11	16.9
その他	240	不明	
合計	762		

感をもって対策を講じている。通学路の安全対策としては、「学校や地域の実態に応じた適切な方法・経路による登校」、「通学路の危険箇所の改善」、「地域との連携による見守り」、「交通安全指導」などが挙げられる。

【橋爪】通学路に関しては、毎年のように、学校、PTAなどから要望が提出されているが、その実現状況はどうなっているか。私のところに入ってくる情報では、要望を出しても、なかなか実現しないというケースが多いと聞いている。例えば、上雲寺小学校、県道新井柿崎線野尻地内の通学路について、歩道設置をという要望が何十年も出されているが実現されていない。また、吉川小学校の（山方、原之町地内）の通学路は狭く、歩道がなく、大型車が通った時にはひやりとする場面があるが、工事完了の見通しは立っていない。全体として、こうした要望の実現状況はどうなっているのかききたい。



【教育長】平成18年度以降における要望は762件。主なものとして、歩道の設置・改修が12件、横断

歩道の設置・改修が111件、街路灯の設置・改修が97件、ガードレール等の設置が71件、交通標識・注意看板の設置が66件、信号機の設置が65件などとなっている。その実現状況としては、概ね16%から35%の実現率となっている（上の表を参照してください）。

【橋爪】昨日、市民の方からメールをいただいた。県道春日山城直江津線、（この通学路については、踏切から北の方には）歩道がなくて危険だ。踏切も危険。特に冬場がおっかない。ガードレールがあるのはいいが、車から逃げようない。車道と歩道を分離しないといけない（という訴えだ）。これも平成18年からずっと要望が出ていた。実現率は16%から35%というのには、深刻な数字だ。これは放置できない。なぜこれほど低い数値にとどまっているのか。どこに力を入れたらいいか。

【教育長】やはり市長が昨日、言われたが、命の犠牲があつてから動くということがあつてはならぬ。なかなか壁が厚くてあきらめてしまうところがあつた。大事なことで前進させることが必要だと思っている。

【橋爪】学校、道路管理者、警察などが初めて合同で点検すると言うが、そこで出された問題をどうやって実現するかを議論して、実現するところまで行かないといけない。ところが、点検と方針提起するところで終わってしまうのではないのかという懸念がある。これは合同で実現の進み具合をチェックするような恒常的な組織にしていけないといけないのではないか。そうしないと、子どもたちの命を守れない。

【秀澤教育部長】（文科省からの文書では）対策メニュー案を検討し、その後、対策案を作成にして実施に移してという通知になっている。そのところの組織をつくってという提案だが、関係課との連携を強化しながら進めていきたい。

還暦を迎えてから、あつという間に二年が過ぎてしまいました。六〇歳を過ぎて何か変わったことがありますかと訊かれ、答える言葉は「忘れっぽくなった」です。極端な話、五分前に話したことを忘れることも。それだけに、記録は大切です。

先日、こんなことがありました。四年前の議会のことを調べようとして、当時の日記を読み直しました。調べたかったのは、選挙後の初の定例議会のことです。同僚議員の初質問にたいする感想など、いまではすっかり忘れていたことがちゃんと書かれています。「おお、あつた、あつた」と喜んで次第です。知りたかったことは議事録などでは記録に残らないことでしたので、「どんな文章でもいいから、残しておくものだ」と思いました。

ところが、調べようと思った情報が入手できなかったにもかかわらず、そこから脇道に入ってしまったました。緊急入院してから半年後の父の様子やわが家の庭木のことなどを書いた記事へと目が移ってしまったのです。言うまでもなく、脇道からなかなか抜け出すことができなくなりました。

六月二三日の日記。「議会后、妻と一緒に病院へ。昨日は母と長女が見舞い、『ハトぼっぽ』を歌っていたと聞いていたので元気だと思っていたら、げんなりしてまったく元気がありません。顔に赤いぶつぶつも出来ていたので、熱を測ったら三六度ちよつとです。でも、目はうつつすらとしか開けず、声をかけてもすぐ寝てしまうといった状態です。いつもは一〇分程度の面会で帰ってくるのですが、心配になり三分ほどいました。明日は家を早く出て、まず病院へ行こうと思います」。

ここに書いてある『ハトぼっぽ』は滝廉太郎作曲の『鳩ぼっぽ』ではなく、文部省唱歌の『鳩』です。「ぼっぽぼっぽ、鳩ポッポ、豆がほしいか、そらやるぞ」たぶん父が歌ったのはこれくらいでしょう。それにしても、歌謡曲や民謡、酒造り唄を歌う父の姿はよく知っていました。童謡を歌っていたとはびっくりでした。

翌日、二四日の日記。「父が入院している病院へは朝と議会終了後行きました。昨日よりも少し元気が出てきたようです。夕方から二時間ほど父のそばにいてくれた妻の話によると、しゃっくりが止まらなかったものの、『さざんかの宿』『炭坑節』のさわりを歌ったとか。帰りに『おれたち、これから家に帰るけど、がまんできるかね』ときくと、いつもなら首を縦に振るか、『うん』とか言うのですが、今晩は黙っていました。『さみしい？』と言うと、こつくりしていました。ちよつとかわいそうでした」

さらに読み進んで二五日の日記。ここには議会の出来事とともにスモモのことが記録してありました。「わが家の庭にあるスモモが実りました。妻の職場で友人の奥さんと会った際、スモモの話をしたところ、『すっぱいスモモが好き。ぜひ分けてほしい』と頼まれました。日が沈むちよつと前の時間、一五〇個くらいもぎました。朝、食べたときには、『もう一日くらい待った方がいいかな』と思つたのですが、夕方、もいで食べると、朝よりも酸っぱさが薄くなって甘味が少しついています。とても美味しくなりました」とありました。今年と違って、この年はスモモが豊作でした。

日記から離れて、議員の仕事に戻るまで三〇分はかかったと思います。でも、気分転換ができました。六〇歳を過ぎ、「忘れっぽくなった」けれども、ちよつとした記録、きつかけさえあれば、思い出にひたり、くつろぐことが多くなってきました。

大雪災害においては、資力の有無にかかわらず、災害救助法による住宅の除雪を行うことができる

今回の一般質問のいまひとつのテーマ、災害対策では豪雪問題を中心に取り上げました。今冬の豪雪のなか、屋根雪の下敷きになるなど3人の市民が亡くなっています。中には1ヶ月も発見されなかったケースもあります。私は、高齢化が進んだことなどにより、1人で除雪するケースが増えてきていることから、いざという時の警報装置、「雪かきビーコン」などの検討を求めました。市側の方も真剣に聴いておられましたので、今後、何らかのアクションがあるものと期待しています。

また、3月議会に続いて災害救助法の適用についても質問しました。厚労省が5月31日に災害救助担当者全国会議を開き、「大雪災害においては、自ら除雪を行う人員の確保が難しい状況であることが想定されるため、資力の有無にかかわらず、同法による住宅の除雪を行うことができる取り扱いとしているので、ご留意願いたい」と書いた文書を配布したことから、あらためて市長に、「労力、資力の有無にかかわらず、助けてくれという声をあげている市民全部を救助すべきではないか」とただしました。

市長答弁は、「県を通して厚生労働省社会・援護局に説明を求めたところ、『豪雪災害における取扱いは、

原則従来のとおりである。ただし、自衛隊派遣や広域応援が必要なくらいの豪雪災害においては、県を通じて厚生労働省と協議し、認められれば、資力の有無にかかわらず、災害救助法による住宅の除雪を行うことができる取扱いをしている』との回答をいただいた。国・県が示す運用に従い、災害時において緊急を要する場合には、現に救助を必要としている世帯が救助されるよう、十分に意を用いてまいりたい」というものでした。3月議会よりも前向きだったとは思いますが、「自衛隊派遣や広域応援が必要なくらいの豪雪災害」「県を通じて厚生労働省と協議し」という表現が引っ掛かりました。これが適用をせばめることにつながらなければいいのですが、心配です。

日本共産党議員団では25日、県の担当部局とこの問題で協議することにしていきます。そこで、しっかり確認してきたいと思つています。

